会議録

１　会議名

令和３年度第２回上越市自殺予防対策連携会議

２　議事（全て公開）

（１）上越市の自殺の現状について

（２）上越市自殺予防対策推進計画について

３　開催日時

令和４年２月２２日（火）　※書面開催

４　開催場所

―

５　傍聴人の数

―

６　非公開の理由

なし

７　書面会議に参加した者の氏名（敬称略）

委　員　：川室優、長谷川雅美、宮﨑貴博、渡辺裕美、疊真穂、小宮山陽子、浅野健志、古田明美、松本新一、原山晃、山本克志、石田俊明、田中美惠子、田中勝、中沢麻有子、松縄麗、山田洋子、波多野さと子、澁谷恵子、高原稔、丸山富一郎、柴好子、丸山尚子、稲田善智、小山直人、山﨑絵里子、内田慎一、小林元、山本隆司、雫石政利、野田晃、曽我茂樹

事務局　：笠原福祉部長

すこやかなくらし包括支援センター　渡辺所長、岩﨑次長、柳澤次長

長嶺副所長、長谷川主任

健康づくり推進課　伊倉保健師長、横山主任、浅野主任

８　内容（要旨）

別紙のとおり

９　問合わせ

福祉部すこやかなくらし包括支援センター

ＴＥＬ：025-526-5623

E-mail：sukoyaka@city.joetsu.ig.jp

１０　その他

別添の資料も併せてご覧ください

令和３年度第２回上越市自殺予防対策連携会議（書面会議）の質問・意見に対する回答一覧

No.	委員	意見・質問	資料	回答
1	長谷川　雅美	自殺対策をしっかり実施計画を立て遂行していても、社会的要因等自殺者を取り巻く環境の速やかな改善にはつながりにくい。しかし、継続していくことが大切で、中でもゲートキーパーにつながることで自殺を食い止めることが実際の自殺企図者から聞いている。「死ななければ」→「死にたくない。助けて！」→「生きてみよう」と考えが転換する方向につながってほしい。	資料 2-1	地区ごとの体制づくり活動、関係機関や民生委員・児童委員に対し、ゲートキーパーの要素を取り入れた研修会を開催し、心配な人がいたら相談につなげ、悩みや不安を軽減できるよう支援していきます。
2	長谷川　雅美	高齢者の自殺者数の増加にも注目してほしい。	資料 1	高齢者の自殺者についても、今後の動向を注視していくとともに、生きていくことに不安や悩みを抱える高齢者を把握した時には、こころの相談窓口につながるよう、市民や関係機関へ周知を図っていきます。
3	宮﨑　貴博	地域別の自殺者数を知りたい。	資料 1	地域別の自殺者数に関する情報は公表されておりません。
4	川室　優	若い女性について、家族の力が弱い中で育ち、コミュニケーション能力が未熟な中で職場の人間関係に躓いている。転職を繰り返し、生活基盤が安定しない人もいる。問題を早い段階で未然に防ぐ、家族へのアプローチの必要性を感じている。	資料 1	幼少期からの切れ目のない支援は重要であることから、子育て中の保護者や家庭への支援も検討していきます。
5	川室　優	令和６年度から新計画になるが、令和４年８月の自殺総合対策大綱の見直しに合わせて、同時並行で事業や体制の整備を行えるとよい。	資料 2-1	令和４年８月の自殺総合対策大綱の見直しを踏まえ、令和５年度以降の事業や体制の整備等を検討していきます。

No.	委員	意見・質問	資料	回答
6	渡辺　裕美	コロナ禍で自殺者が増えているのは理解できた。ただ数字だけだと実感がわかないだけでなく、どこを重点的に対策すべきかの方策に結びつかないように思う。増えているとはいえ、限られている数であるから、そのケースカンファレンス等を行って多職種で検討してみたり、救急外来や精神科等から未遂例を提示していただき検討するというのはどうか。	資料１	自殺予防対策連携会議や研修会等において、様々な事例等を共有しながら、自殺の背景にあるリスクや必要な取組を関係機関の皆さんと検討していきます。
7	畠　真穂	平成 30 年以降減少傾向にあった自殺者数が大きく増えてしまったことは、とても残念に思う。やはり、新型コロナの問題が様々に影響しているのかもしれない。「未遂・既遂事例検討会」で分析し、対策を考えていくことが必要と思う。	資料１	未遂・既遂事例検討会を実施する中で、個々の事例から自殺に至るリスク要因を確認し、対策につなげられるか検討していきます。
8	田中　美惠子	社会全体で傷んだ心や身体をお持ちの方を支援できる社会を目指したい。 資料１についてかなりピーク時より減少の兆しが見えるが、０でないことが大変な課題だと感じる。 支えあう人々のまた支えも必要と感じた。	資料１	自殺予防対策推進計画の基本理念である「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」を目指し、関係機関と連携しながら、一人でも多くの命を救う取り組みを検討していきたいと考えています。
9	中沢　麻有子	地域でゲートキーパーの役割を担う立場の人が、実際に「気づき、傾聴、つなぎ、見守り」によって、具体的な支援を行った事例について共有することで、地域での支援強化を図る取り組みも有効と思われる。	資料 2-1	「気づき、傾聴、つなぐ、見守る」の体制づくり活動や民生委員・児童委員や支援者への研修会等において、支援を行った事例について紹介し、市民ができる取組を考えるきっかけにしていきます。

No.	委員	意見・質問	資料	回答
10	小宮山　陽子	若年層への自殺予防対策の強化が必要と考える。	資料１	現在、自殺に至った人の経過や背景については確認できませんが、自殺に至る原因や動機は様々であると考えられることから、周囲の人がこころの些細な変化を感じ取り、相談につなげることが重要であると考えています。また、自殺企図の可能性がある場合は、速やかに相談窓口につないでいくことも重要であると考えています。 また、引き続き、コロナ禍の状況や、自殺者数の動向を注視していくとともに、未遂・既遂事例検討会等を実施しながら、必要な取組を検討し、次期自殺予防対策推進計画を作成する際に反映させていきます。
11	山田　洋子、波多野さと子、澁谷　恵子	令和３年は、男女ともに自殺者数が増加している。自殺の背景は複雑だが、「増加の背景にあるものは何なのか？」ということについて、市で検討していたら教えてほしい。	資料１	
12	高原　稔	1　令和３年の自殺者の増加の背景とそれに応じた具体的な予防の手立て（政策）をどのように分析しているか聞きたい。 2　１同様に、30歳未満の若年層の自殺が増えている背景とそれに応じた具体的な手立て（政策）をどのように分析しているのか伺いたい。 なお具体的な手立ては実施が難しいとしても、真に必要だと思われる内容についてご教示いただきたい。	資料１	
13	曽我　茂樹	若年層の自殺増加は当センターの活動にもかかわる問題である。これについて、コロナ禍が関係していると思われるが、具体的な要因は何なのか、わかる範囲で教えてほしい。	資料１	
14	柴　好子	自殺の現状（まとめ）で令和３年に入り、1.5倍、特に若年層の割合が増加しているがコロナ禍であることだけが要因なのか気になる。 国、市ともに自殺予防対策推進計画の期間延長は良いと思う。さらなる内容について検討していただきたい。	資料１ 資料2-1	

No.	委員	意見・質問	資料	回答
15	丸山　富一郎	上越市内における自殺者数については、近年鈍化傾向にあっても減少傾向にあった。しかし、令和3年は突然増加の内容となっており、とりわけ高齢者（男女とも）、20歳未満の女性の増加が顕著といえます。また、依然として男性の働き盛りの人の増加がある。このことから、この2年間、コロナ感染症の増加と相まって、地域職場でのコミュニケーションが取れない実態を反映しているように感じる。私は、町内会長もしているが、集落行事ができないし、会議は書面決議や代議員制のような形になっているし、独居老人が増加していることもそれに拍車をかけているように感じる。 早くコロナ感染症が終息し、個人個人が顔を突き合わせて会話ができるようにならないといけない。ワクチン接種が早く進むことを願っている。また、オミクロン株の若年者への感染が急拡大しているので、これらの影響が出ないように、早めの対応をお願いする。	資料1	引き続き、地区ごとの体制づくり活動や、民生委員・児童委員への研修会、地区健康講座等において、居場所づくりや見守りの取組を行うとともに、相談窓口を周知するなど、地域の実情に合わせた取組を推進していきます。
16	丸山　尚子	コロナ禍で行動制限がかかり、孤立に拍車がかかってしまったのか。令和3年の自殺者数の中の女性の20歳未満の結果に大変残念に思った。悩みを相談する相手、場所はなかったのかと。また、女性の80歳以上の結果も増加した原因は孤立なのではないのかと。また、男性については、20～50歳代も多いと思うが、全年代で多数発生しており、女性より原因となる問題点が奥深いのではと思えた。全体的に気軽にすぐに相談できる場所があったらと思う。	資料1	こころの不調を抱える人が早い段階で相談窓口につながるよう、地域において周囲の人が気づき、相談機関につなげる「気づき・傾聴・つなぐ・見守る」体制づくりを進めていきます。